

mat used

外機密

昭和16二九三〇、暗 華府 九月二十二日前發 米、弘

本省

二十三日發着

豊田外務大臣

野村大使

第八三九號ノ一

Doc. 1398

當國ノ近情ハ依然味方諸國ヲ援助シ獨逸ヲ破ラントスル
 ニアリ蘇聯邦カ豫期ヨリモ善ク戦フニ兩足ニアリシモ最近戰
 戦敵に難キモ、アルイ以テ極力英米ニテ之ヲ援助シ軍獨
 講和若クハ降参スル事ナカラニメ冬ヲ持テ越ニ春ニ及ニ
 尚戦カラ維持スル様望ミツツアリ此ノ時ニ當リ更ニ六十
 億弗ノ援助豫算ヲ出シ之ニ依リ英國民、戦意ヲ鞭撻
 セント企圖ス英國ニ對シテハ上陸作戰ハ甚クシク困難ナ
 ナリ且又大西洋、船舶保護ニ米海軍ハ一層積極的ニ
 乗り出シ同明年ハ一年ニテ米國ノミニテ「デッドウオ」ト
 六百萬噸建造ノ見込ヲ立テ然ル上ハ大西洋ノ危機ヲ
 突破シ得ヘク英國大丈夫ト認メソアリ(續ク)

米海軍
積極的

電機

昭和16二九三〇七 暗

華府 九月二十二日後發

米 弘

本省

二十三日發着

豊田外務大臣

野村大使

第八三九號ノ二

併作獨逸國民、對戰意識依然頑固ナルヲ以テ殺上
 消極策ニテハ成功シ難シト見ツツ一面伊國民、不平向上
 ニ依リ伊國ハ戰列ヨリ甚遠スル事モアリ得ヘク又古領
 地域民心、不安ヲ大規模ニ見出ス其ノ内ニ独逸、持
 久力ニ重望ヲ未ス事モアリ得ヘト空頼ミニアリ從テ

NO

Doc 1398

戦争、短期トスルモノ一箇年長期トスルニ三年十年、其
 べア、所以ナリ國民一般ハ誠ニ大國ニ對シテ是ニ
 是戦争ニ被ルルヲ思ヒ居ルモノハ皆無キ言ニ下ナリ而
 ニテ戦争行為ナスルハ海軍力戦争ニ参加スル程度ニ
 テ足り大規模ノ遠征軍ヲ出スル命令ト陸軍當局者
 備ハ前トシ皆無ナリト認メラレ併ニ政治界、独立論者
 次洞者ニ政府、外交政策支持、亦ハ一貫ニ對シテ
 アリ (傳々)

昭和九 二九三。三 時

華府 九月二十二日 後發 米 弘

本省

二十三日 後發

豊田外務大臣

野村大使

第八三九號、三

極東問題ニ付テ、國民一般ハ更ニ若電ニ「日米戰
 争ナサルニシテ得スル爲メ、兩國海軍ハ戰艦新造
 多シ暫ク日米戦ハ海軍、海軍ナリト爲メ日本、経済力、
 長期戦ニ耐ヘス又軍艦、損失補充、カ、米國艦トシテ
 以テ結局勝ツモノト自惚シ對日危險ヲ感スルカ如キ之
 誠ニ少ナシ從テ外交問題トシテ在米、極東方針ヲ堅
 持スヘク此、陸支那ノ犧牲ニ於テ妥協スルカ如キ不可ナ
 リト言フ戦論者多シ創ハ、通信「タイムズ」日曜、
 「ロバート」通信ニ依リハ日米國交調整、目下、最停頓狀
 態ニアリ日本、支那ニ於ケル特殊地位要求ト「タイムズ」之言
 否定スル主張トカ一致ヲ見ケルカ故ニ近衛總理ハ大統領
 ト直接交渉ヲ希望スルニ至リ (傳々)

NO 2

昭和 16 二九二八九 晴 華府 九月二十二日午後 米 宛

本省 二十三日後着

豊田外務大臣

野村大使

第八三九號、四

然レトモ大統領領ハハルト絶エス相談スルモノナリ今日米
國海軍ノ大部分ハ猶太平洋ニ留ミリアルカ日本ハ蘇聯邦
ノ形勢又オ南又ハ北ニ動クコトアルヘク從テ米ハ南洋ニ於
テ同時海上ノ争ヲ見ル惧レアリ大統領ハ特ニ此ノ點ニ考
慮ヲ加ヘツツアリ次ニ日本ハ和平條件トシテ日本ハ條約
書ヲ以テ北支四省ヲ握リ出共、他ニモ警備ノ小部隊ヲ
置ク所アルヘシ坐テ、風南ヲ傳ヘ、最後ニ米國政府ハ支
那ヲ犠牲トシテ我ト妥協ヲ欲セサルモ日本カ武力侵
略ヲ止ムルナラハ日米通商關係ヲ復活シ日本ニ經濟援助
ヲ爲スヘシト述ベタリ右ノ批評ハワシントンホーニ筆
ニテ且取モ自際ニ當リモ、ト認メラル

伯、官、智、利、秘、露、コロコビア、紐、音、榮、港、加、轉
電セリ

本電御見込ニ依リ英、独、伊、共、ハ轉電アリタシ

Doc 1398

No 3

Doc 1398

秘 極 (499895)

電信課長

昭和十六年九月二十八日 前日 貴府 發

九月二十日 前日 本省 春 (暗) (料)

秘 館長 送

野府大使

豊田外務大臣

本ハ六五号

至急

本三十七日 郵 稿ヲミテ「ニニター」ヲ往訪セシメ貴電ノ御
方依頼セシメタリ。尚貴電ヲ九五號ニ對スル当方ニ付、野
府 御 愛 意 迄 込 込 通 じ

「日本首相會見(果次第)中」ニ通ジ米側ノ意思高ニ依リ兩國
間ニ調整 眞本末案件」ニ係ル必政府間ニ意見一致ヲ見タル上
ナラバ之ヲ行フ事ヲ不適當トスルモノニ先方トシテ、且下ガ
託案件ニ於テ我方ノ態度ヲ探知シ居ル態勢ニ在リ我方ト
辛ノ貴電ニ通ジ既ニ其ノ態度ニ付キ言フベキコトヲ無シタル
ニ於テハ以テ之ニ對スル先方ノ意思表示ヲ俟ツベキ事情ニ在リ
從テ我方トシテ先方ノ何令ノ回答ニ先立ツ此ノ際餘種
ノ文書ヲ提出スル上ニ各文書間ノ關係ヲ不明瞭ニシ從ニ
問題ヲ紛糾セシメ交渉ノ進捗ニ有害ナル影響及ビ人ニ
ルヤヲ恐ルル次第ナリ。茲ニ各文書間ノ價值ニ居ルガ如キ關係ヲ
含メルニ於テ我方ノ真意ニテニ不要ノ疑念ヲ招ク張アリ。
至米米側ハ六月廿二日米ヲ基礎トシテ折衝ヲ進メ下セルモノ

4
VO

ニミテ右ハ從來ノ經濟ニ鑑ミルモ決然ト一言ハサルヲ又交渉
促進上モ最も實際的ナルベキニ依リ貴方ニ於テ御折衝ノ際ハ
此ノ「ニニター」ニ依リテ之ヲ切望ニ堪ヘ

Doc 1398

其は三依り同業の道方三人御考慮ヲ得度之殊ニ新定不中
能ハ撤其、項ニ支那多変終結、條件ヲ前陳之ハ取テ
不任洋ノ心正比正和確立、條件ノ存置セルトハ先方
ノ良議ニ因難ナラシム(ニ)要之ニ在案ニ豫備會談ニ纏
ムルハ實果ナラシム科

(3)

1873

(~~50~~ 30207)

張一平九日誌 癸卯年

4-111 四 五 六 七 八 九

極秘 會要符號

張長安

臺灣外務大臣

卷之十一

大正(1912)

會樂先驗十一部

三三同盟，何國三角聯，談話，商文，君子。

西人德士于日本亦不難之也其于日本亦不難之也

10/11

20-2

$$\Gamma_{12} = \Gamma =$$

442 1/2

647 (30223)

陽曆一千九百零四年

十月一日 復奉相府

[illegible]

陳白不務文詞

卷八(續)(庚子)

Doc. 1398

考アル人ニテ本使ニ對シテ終始懇切ナルヲ以テ本使ヨリ
着任以來何等夙績ヲ挙ケ得ヌ慚愧、至リテリト申セシ
度貴使ヲ知ル者人何レモ貴使ノ努力ヲ多トニシ、アリ
ト云ヒ「ビシネヌコニテリニヨニス、ウイクリ」ハ極東問題ニ
關スル危懼自米ニヨリ生ズルヲ迫リテ止モ日米共ニ戦争ハ
無用ニテ日本ノ政策ヲ轉向ニ調整出来シハ米人日ノ終
末ヲ認ムトノ要旨ヲ示シテ讀テ促ニ相共ノ努力ハ致シ
ニト授抄セリ

右海軍大臣ニ傳（願フ）

傳達了 (附)

Doc 1398

30043
30048
30040
30051

極 翁 長 子 號

蘇東坡

豐園外務大臣

K 111 (每100)

第七〇號

一三六

會次會
無羊利局長
東亞局長

171
1. 171

最近國交漸覺天步困難之味
見在通商中進之付然之御取計相成
度之

[illegible]

Doc 1398

見エニ書物ヲ出スルコト、先方ヲ去就。迷ハレコト
ナリ交渉、遷延ヲ求メ縣念アリ現ニマスバ一ニ内話
ニ依リ米國政府側ニ、交渉ヲ東京ニ移タレト自決
日本側、遷延策ト見獨蘇戰結果ヲ待テ北ヲ進
出ヲ取行セトスル下ニナリト觀測ニ居ル趣ナリ

(三) 以上ノ敘テ、話ニ依リ東京、友人(字ニ「ナリ」)ヨリ
日本政府方面ニ、米國側ニ我方今固提案ヲ受
諾セカレ答ヘ三拘ラス未タ行ハレ、華府ニ於テ何人
カ本交渉ヲ邪魔ニ居モト、方受取ラスト來電ナリ
タル由タルカ右情報ニテ真ナリトセ、米國側、意向過
去六月ニ直ル話合ニ於テハキリノ居リノヨリ退却ス
ルコトカレハキトモ果次往電ニ明カナリト思ハレ拘ラ
今以テ東京ニ於テ動モス、米國側音々見傾ル様
感セラル、武、總理選ニツラナリト、ニキム、ヲ以テ
近付ク者アリ、アラスカモ想像セラル、次ナリ

(四) 金、應、藥物ヲト御表示、進リテ是處最近、事
情ニテ得サレモ、アリト拜察スルモ首腦部會見ニ對
スル面合、督保稍頻リ、米國側ニ對テ我方急リ
危リト印象ヲ與ヘ居ル如シ蓋シ米國側トミテ、凍
結令ニ依リ實質上、全面的經濟新交、手ナリ
ニト落著者、我方、反省ヲ注視ニ居ル次第ニ
右現状、繼續、米國トミテ、在ミ痛痒ヲ感セ
續テ何モ受テ、必要ナリ此際我方、息ヲ居感
シ、先方與ニ下、如何ト存セラル(了)